

荘厳な雰囲気が漂う2階廻廊



階段部にも大理石がふんだんに使われている



温故  
知新

第23回

レトロ建築を歩く

## 明治生命館

### DATA

名称 明治生命館  
所在地 東京都千代田区丸の内2-1-1  
完成 昭和9年 設計者 岡田信一郎







大理石の花型飾りが印象的な  
吹抜け部天井

重厚なブロンズ製の扉にも  
アカンサスの飾りが



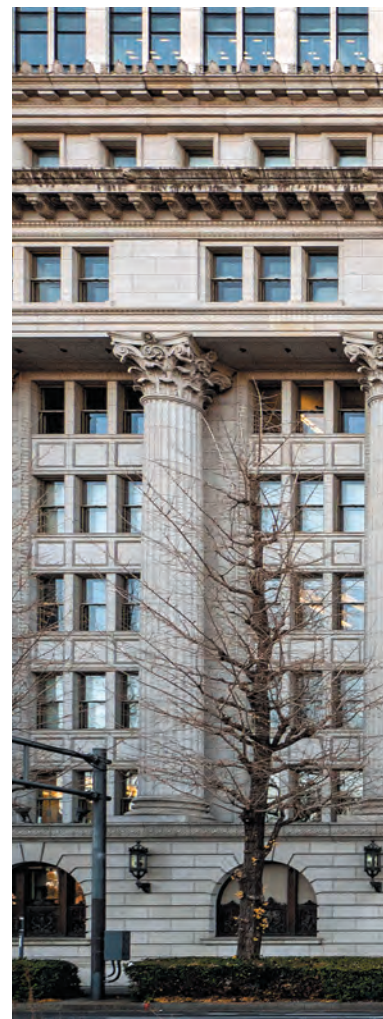
**皇**居の馬場先濠に面して建つ明治生命館。古代ギリシア・ローマを源流とする「古典主義様式」の建築だ。

設計は、鳩山会館や大阪市中央公会堂の設計で知られる岡田信一郎。この建物は、岡田が生前、最後に手がけた建設である。

構造は、地上8階・地下2階の鉄骨鉄筋コンクリート造。外装の石材には岡山県産の花崗岩を使い、石造りのような重厚感を醸し出している。

外観で目を引くのは、巨大な「コリント式」円柱だ。柱頭に施されるアカンサス（葉薊）の技巧的で華美な装飾が特徴のコリント式円柱が、建物の5層にわたって10本並んでいる。柱には上に向かうにつれ細くなっていく「エントサス」という技法が施され、迫力のある外観を構築している。

外壁が、列柱部分を中心として下部に石組の土台、上部に軒がデザインされた屋根の3部で構成されているのも、古典主義様式の伝統に則ったものである。内部は、1階部分の天井が吹抜けの大



空間となっている。館内各所にいろいろな種類の大理石がふんだんに使用され、荘厳な外観と変わって華やかな空間が広がる。

印象的なのが、吹抜け部天井を彩る丸い花型飾りの「ロゼット」だ。これも大理石でつくられている。

2階には、吹抜けを取り囲むように、廻廊が設けられている。戦後の昭和20年（1945年）から11年の間、建物がGHQに接収されていた折に対日理事会の会場とされた会議室をはじめ、執務室、応接室などが設置されている。

昭和期に建てられた建造物としては初めて、平成9年（1997年）に国の重要文化財に指定された。

その後、隣接する30階建ての明治安田生命ビルの建設と併せた街区再開発プロジェクトにより、明治生命館は外部、内部の修復、復元が行なわれ、調度品も含め「完全保存」がなされた（明治生命館のリニューアルは平成17年）。

現在も、明治安田生命保険の本社屋として利用されている。